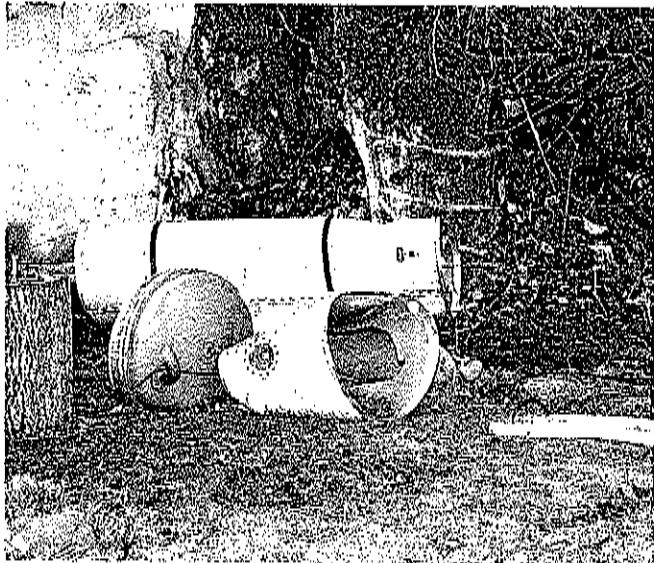


12/2 火

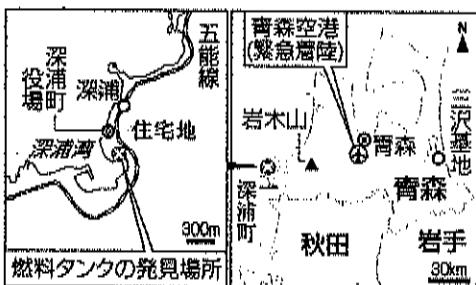
燃料タンク住宅近く

防衛省、飛行中止を要請

青森・米軍投棄



米軍三沢基地所属のF16戦闘機から投棄された金属製物体=1日午前8時21分、青森県深浦町



11月30日午後6時10分ごろ、米軍三沢基地(青森県三沢市)所属のF16戦闘機が青森空港(青森市)に緊急着陸し、滑走路が翌日午前まで閉鎖された。米軍機は着陸前

に燃料タンク2個を地上に投棄。同県深浦町役場や住宅に近い国道周辺で1個が見つかった。もう1個は見つかっていない。青森県の三村申告知事は1日、重大事故

につながる可能性があったとして米軍側に強く抗議した。政府にも対応を求めた。防衛相の指示に基づき、米側に安全が確認されたままでのF16の飛行中止と、原因究明のため地元への情報提供を要請した。

三村知事は県庁で面会し

た三沢基地のティモシー・マーフィー副司令官に「大惨事を起こしかねなかつたうえで、どういふことを忘れないでいただきたい」と伝えた。鬼木誠防衛副大臣とも面会し、「厳正な対応を強くお願いする」と求めた。

岸防衛相は取材に応じ、「住民に大変な不安と懸念を生じさせた。あつてはならない」と述べた。大変に重く受け

止めている」と述べた。タンクは国道脇の柵に直撃し一部が壊れた。けが人はなかつた。米軍は当初「非居住地域に投棄した」と発表したが、

発見現場と住宅地は約20kmしか離れていない。副司令官は1日午後、深浦町の吉田満町長とも面会。タンクの投棄場所を「非居住地域」としたことに對して「皆さんの心情を傷つけ、遺憾」思う」と述べ、

米軍の調査委員会が発足しており、事故原因を調べるとしている」と伝えた。